

現代青少年の性意識と性行動

—特に高校生・短大生の性意識について—

岩田 銀子, 大和田信夫

群馬大学医療技術短期大学部

(1992年9月30日受理)

Modern Sexual Consciousness and Behavior of the Younger Generation

—Particularly, Sexual Consciousness of the High-school and Junior-college Students—

Ginko IWATA and Nobuo OHWADA

College of Medical Care and Technology, Gunma University,

Maebashi, Gunma 371, Japan

Key Words: Sexual Education, Sexual Behavior, Sexual Consciousness

SUMMARY: Sexual behavior in youth of Gunma prefecture was sent out a questionnaire. The subject were 334 students enrolled in upper secondary school and were 213 students in college. A voluntary questionnaire was given to the students, and they were asked to fill it out at home and return it during the next class meeting. Experimental rate of sexual intercourse was 11.7% in upper secondary school and was 21.6% in college. Sexual consciousness has been contradicted but sexual behavior has been affirmed. It is concluded from this study that certain hypotheses can be derived about age differences in sexual needs and desires about sexual behavior.

1. はじめに

今日では「性教育＝性知識教育」というような捉え方にたいする反省があり、「性教育＝人間教育」として考える観点が強調される時点にきている¹⁾。

一方、近年子供の身体的発育は加速化されてきた。ところが、身体的に成熟しても、精神的発達がそれに伴わないことから、若年妊娠など種々の問題を生じてきている。

特に、近い将来母親になるであろう青年期女子について性について、より健全な発達を期することはいうまでもないが、まずその実態を明

かし、それに即した対応のしかたが急務とされる。

日本性教育協会 (JASE) に於いて、既に青少年の性にたいする実態は明らかにされている部分があるが、今回、私達は、一地方都市に於ける高校生、短大生にたいして実態調査を行ったので若干の分析、考察を加えて報告する。

2. 方法

調査期間 平成4年7月～8月

調査対象 前橋市に於ける女子高校生334名、(回収率100%, 有効回答率94.9%), 短大生女子213名 (回収率95.8%, 有効回答率93.7%)

調査内容 JASE の調査項目に性に対する認識や、自己の性に対する受けとめ方をみる項目、5項目を追加した。調査項目1) 対象者の背景(父親の職業、母親の職業の有無、小、中学校の頃に住んでいた場所、過去の家庭や学校のイメージ)

2) 性に対する知識 3) 性に対する関心度
4) 性に対する認識 5) 性行動等

調査方法 アンケート調査

表1 セックスに対するイメージ

項目	単位 人数(%)		
	高校	短大	全体
明るい	55(16.5)	31(14.6)	86(15.7)
暗い	7(2.1)	7(3.3)	14(2.6)
どちらともいえない	270(80.8)	173(81.2)	443(81.0)
無効	2(0.6)	2(0.9)	4(0.7)
楽しい	73(21.9)	40(18.8)	113(20.7)
楽しくない	8(2.4)	9(4.2)	17(3.1)
どちらともいえない	250(74.9)	162(76.1)	412(75.3)
無効	3(0.9)	2(0.9)	5(0.9)
きれい	37(11.1)	25(11.7)	62(11.3)
きたない	46(13.8)	13(6.1)	59(10.8) *
どちらともいえない	247(74.0)	173(81.2)	420(76.8)
無効	4(1.2)	2(0.9)	6(1.1)
良い	100(29.9)	43(20.2)	143(26.1)
悪い	6(1.8)	4(1.9)	10(1.8)
どちらともいえない	225(67.4)	163(76.5)	388(70.9)
無効	3(0.9)	3(1.4)	6(1.1)
軽い	26(7.8)	8(3.8)	34(6.2)
重い	957(28.4)	82(38.5)	177(32.4) *
どちらともいえない	210(62.9)	121(56.8)	331(60.5)
無効	3(0.9)	2(0.9)	5(0.9)
恥ずかしい	151(45.2)	88(41.3)	239(43.7)
恥ずかしくない	45(13.5)	18(8.5)	63(11.5)
どちらともいえない	135(40.4)	105(49.3)	240(43.9)
無効	3(0.9)	2(0.9)	5(0.9)

**P<0.01

*P<0.05

3. 結 果

1) 性に対する認識

(1) セックスに対する認識及びイメージについて

セックスに対するイメージを(表1)のごとく「明・暗」,「楽しい・楽しくない」,「きれい・汚い」,「良い・悪い」,「軽い・重い」,「恥ずかしい・恥ずかしくない」について回答を得た。高校生,短大生共,セックスについてのイメージは,“どちらともいえない”が約70~80%であった。

しかし,羞恥心については「恥ずかしい」と答えたものが約50%を占めた。高校生と短大生との相違についてみると,高校生は短大生に較べて,「きれい」というイメージは同程度であるが,「きたない」というイメージが有意($P < 0.05$)に高かった。また「軽い」というイメージが高校生は短大生より有意($P < 0.05$)に高く認められた。

表2 テレビなどでキスの場面をみてどう思うか

項目	高校	短大	全体
すばらしい	16(4.8)	2(0.9)	18(3.3)
いやらしい	234(70.1)	161(75.6)	395(72.2)
なんともいえない	81(24.3)	49(23.0)	130(23.8)
無効	3(0.9)	1(0.5)	4(0.7)
合計	334(100)	213(100)	547(100)

単位 人数(%)

(2) 異性との交際についての考え方

「異性から二人きりの場所に誘われた場合どうするか」(表3)の質問に対して,“その場の雰囲気による”が,高校生54.5%(182名),短大生53.1%(113名)とも一番多い。相手が信頼できて

表3 異性から二人きりの場所に誘われた場合

項目	高校	短大	全体
相手が信頼できて断る	37(11.1)	12(5.6)	49(9.0)
ついていく	19(5.7)	6(2.8)	25(4.6)
その場の雰囲気による	182(54.5)	113(53.1)	295(53.9)
なんともいえない	94(28.1)	80(37.6)	174(31.8)
無効	2(0.6)	2(0.9)	4(0.7)
合計	334(100)	213(100)	547(100)

χ^2 検定 $\chi^2=10.53$ $df=4$ $p<0.05$ 単位 人数(%)

断るといふ者は9%(49名)とわずかである。

「婚前性交の是非」(表4)については,“どんな場合でもだめ”は,高校生3.9%(13名),短大生1.9%(4名)と少ない。“結婚前提であれば良い”については,高校生12.6%(42名),短大生13.6%(29名)である。一方,愛しあっていたら良い,お互い納得して良いを合わせると,高校生78.7%,短大生83.6%と,高率に婚前性交に対して肯定している。次にフリーセックス(特定の相手を決めないでセックスをする)に対しては,賛成としている者が39.5%,不賛成15.4%であった。

表4 婚前性交についての貴方の考え

項目	高校	短大	全体
どんな場合でもいけない	13(3.9)	4(1.9)	17(3.1)
結婚が前提ならかまわない	42(12.6)	29(13.6)	71(13.0)
愛しあっていたらかまわない	151(45.2)	77(36.2)	228(41.7)
お互い納得して良い	112(33.5)	101(47.4)	213(38.9)
言葉の意味がわからない	15(4.5)	1(0.5)	16(2.9)
無効	1(0.3)	1(0.5)	2(0.4)
合計	334(100)	213(100)	547(100)

χ^2 検定 $\chi^2=18.10$ $df=5$ $p<0.05$ 単位 人数(%)

(3) 自己の性に対する認識

「女性に生まれて良かったか」(表5)については,“そう思う”が高校生は31.1%(104名),短大生は52.6%(112

表5 女性に生まれて良かったか

項目	高校	短大	全体
そう思う	104(31.1)	112(52.8)	216(39.5)
思わない	71(21.3)	13(6.1)	84(15.4)
なんともいえない	153(45.8)	83(39.0)	236(43.1)
無効	8(1.8)	5(2.3)	11(2.0)
合計	334(100)	213(100)	547(100)
χ^2 検定	$\chi^2=36.20$	df=3	p<0.01 単位 人数(%)

名)である。短大生に於いて自己の性を肯定している者が高校生より有意に高く認められる。(P<0.01)また、その理由については、女性は子供が産めるからとしている者が、他の理由に比較して高く認められた。

表6 性について一番知りたいこと

項目	単位 人数(%)		
	高校	短大	全体
異性との交際	124(37.1)	75(35.2)	199(36.4)
愛とはなにか	86(25.7)	72(33.8)	158(28.9)
性交	67(20.1)	38(17.8)	105(19.2)
避妊の方法	106(31.7)	44(20.7)	150(27.4)
性病の知識	139(41.6)	50(23.5)	189(34.6)
性欲の処理	17(5.1)	8(3.8)	25(4.6)
自分の体と異性の体の構造や働き	13(3.9)	9(4.2)	22(4.0)
自分の体が完全かどうか	83(24.9)	44(20.7)	127(23.2)
男性と女性の心理や行動	96(28.7)	94(44.1)	190(34.7)
男性と女性の役割	13(3.9)	29(13.6)	42(7.7)
性の人生における意味	27(8.1)	21(9.9)	48(8.8)
人間の性と哺乳動物の違い	6(1.8)	9(4.2)	15(2.7)
その他	11(3.3)	1(0.5)	12(2.2)

複数回答

2) 性についての関心度、知識について

「性について一番知りたいことは何か」

(表6)については、高校生では、“性病の知識”41.6%(139名)が一番高く、次いで“異性との交際”37.1%(124名)、“避妊の方法”31.7%(106名)の順であった。短大生に於いては、“男性と女性の心理や行動の違い”44.1%(94名)が一番高く、次いで“異性との交際”35.2%(75名)、三番目は“愛とは何か”33.8%(72名)であった。

「性教育で教わったことは何か」(表7)

については、性の生物的側面については、高い比率で教わったと答えているが、心理的、情緒的側面については、50%に達していない項目がほとんどであり、さらに避妊や中絶、性病といったことに関しては、教

表7 性教育で教わったこと

項 目	単位 人数(%)		
	高 校	短 大	全 体
性器のつくりと働き	245(74.2)	166(80.6)	411(76.7)
初潮	318(96.4)	200(97.1)	518(96.6)
精通	228(69.1)	160(77.7)	388(72.4)
二次性徴	278(84.2)	176(85.4)	454(84.7)
生命の誕生(受精・妊娠・出産)	265(80.3)	171(83.0)	436(81.3)
性の決定と遺伝	156(47.3)	112(54.4)	268(50.0)
男女の心理と行動の違い	102(30.9)	80(38.8)	182(34.0)
男女の役割と協力	72(21.8)	77(37.4)	149(27.8)
男女交際のありかた	88(26.7)	63(30.6)	151(28.2)
思春期の心理	198(60.0)	114(55.3)	312(58.2)
友情と恋愛	45(13.6)	42(20.4)	87(16.2)
結婚の意義と条件	97(29.4)	71(34.5)	168(31.3)
人口問題と家族計画(避妊・中絶)	—	—	—
性病・性非行	—	—	—
性文化(マスコミ・風俗)	—	—	—
性道徳	—	—	—
その他	—	—	—

複数回答

わったとする者は、皆無であった。しかし、短大生になると、避妊や性病について知りたいという優先度は低くなるが、これは、それらに関する知識を何らかの方法で得ている為といえる。

異性に対する関心度と年齢との関連をみると、異性に近づきたいと思う者は10才頃から徐々に増え、12才から急速に関心度が増している(表8)。また、キスをしてみたいと思った年齢についても13才頃から増加している(表9)。

3) 性行動

デートの経験の有無(表10)について、高校生においては45.2%(151名)が経験している。キスの経験については(表11)27.2%(91名)、性交経験は11.7%(39名)

である。また、キス経験者の42.9%は、性交経験者であった。年齢との関連については、デートは9才頃から始まり、14才から急増する。性交経験は中学生に始まり、高校生で増える。

性交経験の動機として、高校生は“その人が好きだった”69.2%(27名)が一番で、次に“愛していたから”38.5%(15名)、三番目に“好奇心”28.2%(11名)となっている。その時避妊を実行したか否かについては74.45%(29名)が実行しているが、25.6%(10名)が実行しなかったとしている。

短大生に於ける性交経験の動機は、“その人が好きだったから”84.8%(39名)、“その人を愛していたから”30.4%(14

表8 異性に近づきたいと思った年令

項目	高校	短大	全体
5才	1(0.4)	1(0.5)	2(0.4)
6才	1(0.4)	1(0.5)	2(0.4)
7才	5(1.9)	3(1.6)	8(1.8)
8才	3(1.1)	8(3.2)	9(2.0)
9才	3(1.1)	0	3(0.7)
10才	22(8.4)	8(4.2)	30(6.6)
11才	13(4.9)	9(4.7)	22(4.9)
12才	51(19.4)	30(15.8)	81(17.9)
13才	67(25.5)	25(13.2)	92(20.3)
14才	34(12.9)	25(13.2)	59(13.0)
15才	27(10.3)	18(9.5)	45(9.9)
16才	9(3.4)	17(8.9)	26(5.7)
17才	2(0.8)	8(4.2)	10(2.2)
18才	-	11(5.8)	11(2.4)
19才	-	2(1.1)	2(0.4)
20才	-	1(0.5)	1(0.2)
無効	25(9.5)	25(13.2)	50(11.0)
合計	263(100)	190(100)	453(100)

単位 人数(%)

表9 初めてキスをしてみたいと思った年令

項目	高校	短大	全体
7才	1(0.6)	0(0.0)	1(0.4)
8才	-	-	-
9才	-	-	-
10才	2(1.2)	1(0.8)	3(1.1)
11才	1(0.6)	0	1(0.4)
12才	11(6.7)	6(5.0)	17(6.0)
13才	27(16.6)	6(5.0)	33(11.7)
14才	44(27.0)	10(8.3)	54(19.1)
15才	39(23.9)	13(10.8)	52(18.4)
16才	25(15.3)	15(12.5)	40(14.1)
17才	3(1.8)	17(14.2)	20(7.1)
18才	1(0.6)	21(17.5)	22(7.8)
19才	-	9(7.5)	9(3.2)
20才	-	3(2.5)	3(1.1)
無効	9(5.5)	19(15.8)	28(9.9)
合計	163(100)	120(100)	283(100)

単位 人数(%)

名)が大半を占め,“好奇心”と言う者は,6.5%(3名)である。

4) 性行動と認識との関係

(1) 性体験と認識との関係

性交経験者が,未経験者との間に性に

表10 デートの経験の有無(高校生・短大生)

	高校生			
	1年	2年	3年	全体
有る	44(33.8)	57(46.3)	50(61.7)	151(45.2)
無い	86(66.2)	64(52.0)	30(37.0)	180(53.9)
無効	0	2(1.8)	1(1.2)	3(0.9)
合計	130(100)	123(100)	81(100)	334(100)

	短大生				
	1年	2年	3年	無効	全体
有る	33(45.8)	55(77.5)	57(82.6)	1(100)	146(88.5)
無い	39(54.2)	16(22.5)	12(17.4)	0	67(31.5)
合計	72(100)	71(100)	69(100)	1(100)	213(100)

単位 人数(%)

表11 キスの経験の有無(高校生・短大生)

	高校生			
	1年	2年	3年	全体
有る	26(20.0)	34(27.6)	31(38.3)	91(27.2)
無い	101(77.7)	88(71.5)	48(59.3)	237(71.0)
無効	3(2.3)	1(0.8)	2(2.5)	6(1.8)
合計	130(100)	123(100)	81(100)	334(100)

	短大生				
	1年	2年	3年	無効	全体
有る	14(19.4)	35(49.3)	39(56.5)	1(100)	89(41.8)
無い	56(77.8)	34(47.9)	30(43.5)	0	120(56.3)
合計	72(100)	71(100)	69(100)	1(100)	213(100)

単位 人数(%)

対する認識の違いがあるか否かについてみると,「婚前性交」の是非等については,未体験者との間に有意差は認められなかった。しかし,セックスに対するイメージについては(表12)性交経験者は,未経験者と比較すると,全ての項目について未経験者とのあいだに有意差(P<0.01)が認められる。

性交経験者は,明るい,楽しい,美し

表12 高校生のセックスに対するイメージ（性交経験の有無による）

項目	性交経験あり	性交経験なし	全体	
明るい	17(43.6)	36(13.0)	53(16.8)	
暗い	0 0	6(2.2)	6(1.9)	**
どちらともいえない	20(51.3)	234(84.8)	254(80.6)	
無効	2(5.1)	0 0	2(0.6)	
楽しい	18(46.2)	51(18.5)	69(21.9)	
楽しくない	0 0	6(2.2)	6(1.9)	**
どちらともいえない	19(48.7)	218(79.0)	237(75.2)	
無効	2(5.1)	1(0.4)	3(1.0)	
きれい	11(28.2)	25(9.1)	38(11.4)	
きたない	2(5.1)	36(13.0)	38(12.1)	**
どちらともいえない	24(61.5)	213(77.2)	237(75.2)	
無効	2(5.1)	2(0.7)	4(1.3)	
良い	24(61.5)	73(26.4)	97(30.8)	
悪い	0 0	4(1.4)	4(1.3)	**
どちらともいえない	13(33.3)	198(71.7)	211(67.0)	
無効	2(5.1)	1(0.4)	3(1.0)	
軽い	5(12.8)	19(6.9)	24(7.6)	
重い	13(33.3)	77(27.9)	90(28.6)	**
どちらともいえない	19(48.7)	179(64.9)	198(12.9)	
無効	2(5.1)	1(0.4)	3(1.0)	
恥ずかしい	15(38.5)	124(44.9)	139(44.1)	
恥ずかしくない	10(25.6)	33(12.0)	43(13.7)	**
どちらともいえない	12(30.8)	118(42.8)	130(41.3)	
無効	2(5.1)	1(0.4)	3(1.0)	

**P<0.01

*P<0.05

単位 人数(%)

い、善い、軽いに於いて、未性交経験者より有意に高かった。しかし、羞恥については、恥ずかしいが、未経験者に高かった。

(2) キス経験と認識との関係

キス経験者と未経験者とのセックスに対するイメージの比較は、性交経験者と

未経験者との比較と同じ傾向にあった。

4. 考 察

青少年の性に対する捉えかたと実際の性教育の間にある種の隔たりが存在する²⁾。

これは、青少年の身体的な発育が促進されてきていることや、性体験や、性意識が変化して

きていることに、一因があるといえる。

そこで、私達は今回、高校生、短大生の性意識の捉え方に焦点をあて、分析を行った。

セックスに対してのイメージは、高校生、短大生ともどちらともいえないと、答えた者が多い。しかし、恥ずかしいというイメージは50%の者が抱いており、他のイメージに比較して高いといえる。

一方、異性との交際についての認識の仕方は婚前性交に対して、高校生、短大生とも7割以上の者が、肯定している。

また、異性から二人きりの場所に誘われた場合、その場の雰囲気によるとしたものが、50%以上に認められた。

高校生・短大生のセックスに対するイメージはまだ漠然としており、かつ否定的であるといえる。性についてタブー視されてきた日本古来の世相の反映であることが伺える。

反対に性行動に対する考え方は、自由で、開放的である。

また、性に対するイメージや、自己の性に対する認識については、高校生と短大生の間に有意差 ($P < 0.01$) が認められた。これは、年齢が高くなるに伴い性に対するイメージや自己の性について、肯定的になることがわかる。性に対するイメージや認識については (JASE) 1987年に於ける調査と同傾向にあった。

性について知りたいことは、高校生は、心理的側面より、性行動に伴うより実際的なこと、いわゆる避妊や性病に関して知りたいと思っている。短大生は、性に関する心理的、情緒的側面についての関心度が高いといえる。しかし、避妊や中絶、性病といったことに関して、学校教育では、教わっていないと答えている (表7)。これは、JASEの調査と比較すると、教わっていないとするものが当調査に於いて多かった。

避妊や性病の学校教育の必要性について10数年来提唱されているにも拘らず、教育の場で

は、まだまだ取り組みが遅れているといえる。

一方、異性に対する関心度も、低学年から高まっており、高校生においても、性交経験者が、8.7% (JASE) ある昨今、また若年妊娠の問題を回避する為にも、性病や避妊に対する教育のあり方について、今後改善の余地があると思われる。

性交経験に於いては、JASEの調査と当調査との違いは認められなかった。

高校生に於ける性交経験の動機として、性に対する安易さや、自己の未熟さが少数にみられるが、この年代に生じ易い現象として捉え、心理的・社会的側面からのアプローチも必要とおもわれる。

性交経験者と (キス経験者) 未性交経験者の性についての認識の相違は、性交経験者は未性交経験者に比較すると、セックスに対して肯定的に受けとめているといっている。

しかし、性交経験者と未性交経験者とのイメージの違いは、低学年 (高校生) ほどその差が認められる。

性教育は、まだ性に対して羞恥心の強くない低学年から行うことが良いとの考えがある。さらに、適切な性教育は、性に対するイメージについても、肯定的な認識を促すとされている。しかし、一方では、なかなかそれが実行に移されないのが実状であると思われる。またこの時期は、誤った性情報に左右され易い年代でもあることに鑑み、早期の性教育が必要であるといえる。

5. まとめ

1) 性についての認識

高校生、短大生の性についてのイメージは、否定的に捉える者が多い。

しかし、年齢が高くなるにつれて、性について肯定的に受けとめる者が増える。

男女交際についての意識は、婚前性交について、愛し合っていれば良い、お互い納得し

ていれば良い,を合わせると,高校生78.7%,短大生83.6%に認め,結婚という枠に捉われない自由な考え方をする者が多い.

2) 性についての関心度,知識について

性について知りたいことは,高校生は,性病の知識41.6%や避妊の方法31.7%であり,性に関する具体的なことに関心が高かった.また,異性との交際37.1%についても高い関心があった.

短大生ではむしろ異性との交際における,心理的,情緒的側面についての関心度が高かった.

性教育で教わったものとして,性の生物的側面については,多くの者が教わったとしているが,心理的,情緒的側面については,50%にも達しておらず,さらに避妊や中絶,性病といったことに関しては,教わったとする者は,皆無であった.

性についての関心は,小学校4年生,10才頃から芽生え,中学生,13才頃から急速に増してくる.

3) 性行動

デートの経験は,高校生においては,45.2%(151名)の者が経験しており,キスの経験は,27.2%(91名)であった.また,キスの経験者の42.9%は性交経験者であった.

性交経験者と未経験者の性のイメージは,性交経験者が有意に肯定的であった.しかし婚前性交に対する考え方や,自己の性に対する認識については,有意差は認められなかった.

引用文献

1. 藤田祿太郎: 高校生の「性」についての認識に関する調査研究(1), 東京学芸大学紀要 28: 250-261, 1976.
2. 財団法人日本性教育協会編: 中学・高校・大学生の性行動白書, 小学館, 1988.

参考文献

1. 財団法人日本性教育協会編: 中学・高校・大学生の性行動白書, 小学館, 1988.
2. 原純輔: 現代青少年の性行動-JASE 全国調査から, 周産期医学 20: 597-601, 1990.
3. 西本栄子他: 高校生の性意識・性知識調査, 母性衛生 23(1): 50-57, 1982.
4. 田能村祐麒: 現代青少年の性行動-都性研の調査から, 周産期医学 20: 603-608, 1990.
5. 安沢菊江他: 現代青少年の性意識・性行動に関する実態調査-東北地方の大学生と関東地方の大学生の比較から-, 思春期学 7: 256-262, 1989.
6. 藤田祿太郎: 高校生の「性」についての認識に関する調査研究(1), 東京学芸大学紀要 28: 250-261, 1976.
7. 藤田祿太郎: 高校生の「性」についての認識に関する調査研究(2), 東京学芸大学紀要 29: 244-255, 1977.
8. 丸山知子他: 女子大生に於ける母性への意識と性格傾向に関する調査, 第18回日本看護学会集録-母性看護-, P.136-138, 1987.
9. 飯島久美子他: 女子学生に於ける母性意識と性行動, 母性衛生 31(1): 58-64, 1990.
10. 片岡茂雄: 高校生の性意識と性行動について(1), 保健の科学 25: 647-651, 1983.
11. 片岡茂雄: 大学生の性意識と性行動について(1), 保健の科学 24: 159-157, 1982.
12. 林謙治: 思春期の保健, 保健の科学 25: 45-49, 1983.
13. 玉田太朗: 思春期妊娠-日本産婦人科学会の調査から-, 周産期医学 20: 609-616, 1990.